

2004. 6月

# 都市みらい通信 IFUD LETTER

Institute for Future Urban Development



## 【目次】

- ・東京ビックサイトでの「駅まちづくりフェア」にブース出展 P 1
- ・まちづくり情報「NTT西日本鈴鹿研修センタ跡地土地利用転換計画策定事業について」 P 2～3
- ・全国都市再生最前線での展開について P 4～5
- ・財団の活動状況（カレンダー） P 6
- ・品川新拠点研究会「品川を海から見る」 P 7
- ・全国都市づくり先進情報技術展開催のお知らせ（岐阜県） P 8

## 《ハイライト》

- ・まちづくり情報：「NTT西日本鈴鹿研修センタ跡地活用」
- ・全国都市再生最前線での展開

## § 東京ビックサイトでの「駅まちづくりフェア」にブース出展

当財団では、日頃より交流している(財)日本経営協会主催の「駅まちづくりフェア」に今年も出展することになりました。

このフェアは、駅とまちづくりが融合して共に発展することを期待して開催されているものであり、自治体や民間企業がそれぞれの立場でノウハウの提供を行っております。

昨年のこのフェアには、3日間で2万人の来場者があり、私どものブースにも2千人が立ち寄られました。

このフェアでは展示との相乗効果を期待して、講演会やシンポジウムが開催されています。今年、国土交通省の松井都市総合事業推進室長にお願いし「まちづくり交付金の活用方法」と題してご講演頂きます。

なお当日は、同じく(財)日本経営協会主催の「自治体相互フェア」や「病院・福祉施設住環境フェア」も併催されます。皆様方のご来場を心よりお待ちしております。

- ◇開催日 2004年7月14日(水)～16日(金) ◇開催時間 10:00～17:00
- ◇会場 東京ビックサイト ◇後援 国土交通省・経済産業省・総務省
- ◇協賛 全国知事会・全国市長会・日本商工会議所・(社)日本民営鉄道協会  
(財)店舗システム協会 (財)都市みらい推進機構 他
- ◇講演等
  - ・駅とまちの新しい可能性
  - ・まちづくり交付金の活用について
  - ・観光と街づくりを考える(シンポジウム)
  - ・交通バリアフリーの現場から(シンポジウム)
  - ・街と駅ビル開発
  - ・ニセコのまちづくりと観光振興
  - ・交通バリアフリーの現状と展開

\*詳しくは、<http://www.noma.or.jp/stf/>をご覧ください。企画調整部の篠原(TEL03-5976-5860)までお問い合わせください。



## § N T T西日本鈴鹿研修センタ跡地土地利用転換計画策定事業について

当財団では、国土交通省土地・水資源局が推進している土地利用転換調査を積極的に支援しておりますが、本件プロジェクトもこの一環として、平成14、15年度の2カ年にわたり、鈴鹿市より調査受託したものです。本調査が今後のプロジェクト推進に資することを大いに期待しております。  
(開発調査部 磯部)

### 1. 地区の概要

本計画の対象地（以下、「計画地」という）は、国道23号に面し、鈴鹿市のエントランスエリアと位置づけられ、また中心市街地活性化区域でもある白子駅周辺地区と、同国道により約2kmでダイレクトに結ばれています。さらに、市役所等が集積する鈴鹿市のセンターエリアである神戸地区とも、直線で約3kmのところに位置しています。

計画地は、33haの広大な面積を有す旧N T T鈴鹿研修センタの跡地です。戦前には鈴鹿海軍航空基地として利用され、その後昭和24年に国の電気通信職員の訓練施設が建設されて以降、電電公社、N T Tと組織が改編される中であって、一貫して技術系職員の研修施設としての役割を担ってきましたが、平成13年3月にその役割を終え、現在は閉鎖状態にあります。

平成13年度に国土交通省の「低・未利用地有効活用促進臨時緊急調査」が行われ、この報告書の提言を踏まえ、平成14年度より設置されたN T T西日本鈴鹿研修センタ跡地土地利用転換計画策定協議会において、土地利用転換計画の策定を行いました。

### 2. 土地利用構想

- 「大学」、「インキュベータ」及び開発された製品のマーケティングの場となる「健康・福祉の生活現場」が公園的空間の中で一体的に展開する『健康・福祉のサイエンスパーク』の形成を図ります。
- 新たな「まち中」像を提案し、郊外にはないまちの魅力の創出をめざします。
- 統一したランドスケープデザインコンセプトに基づき、建物が優れた環境の中に点在するという、開放的な公園的空間の創出を図ります。
- 本計画地内だけでなく、周辺の将来的な土地利用の変化等をも考慮に入れた、長期展望にたった計画づくりをめざします。

### 3. 土地利用計画

- 大学用地
  - 地元大学の新学部、大学院、研究所の用地とします。
- 防災型広場ゾーン
  - 桜並木を保全しつつ、防災対応機能を持った公園的空間として整備します。
  - 野球場は、平時は野球場としての機能を維持します。
- 新産業支援ゾーン
  - 既存の研修棟6号館をリファイン利用します。



－大学と産業界との接点強化をはじめとした新産業支援の総合窓口センターを設けるほか、この窓口機能を充実させるため、会計・特許等のビジネスサポート機能、広域産業支援機関の地域ブランチ機能、企業OB等人材活用情報交流機能、マーケティング情報センター機能等を併設します。

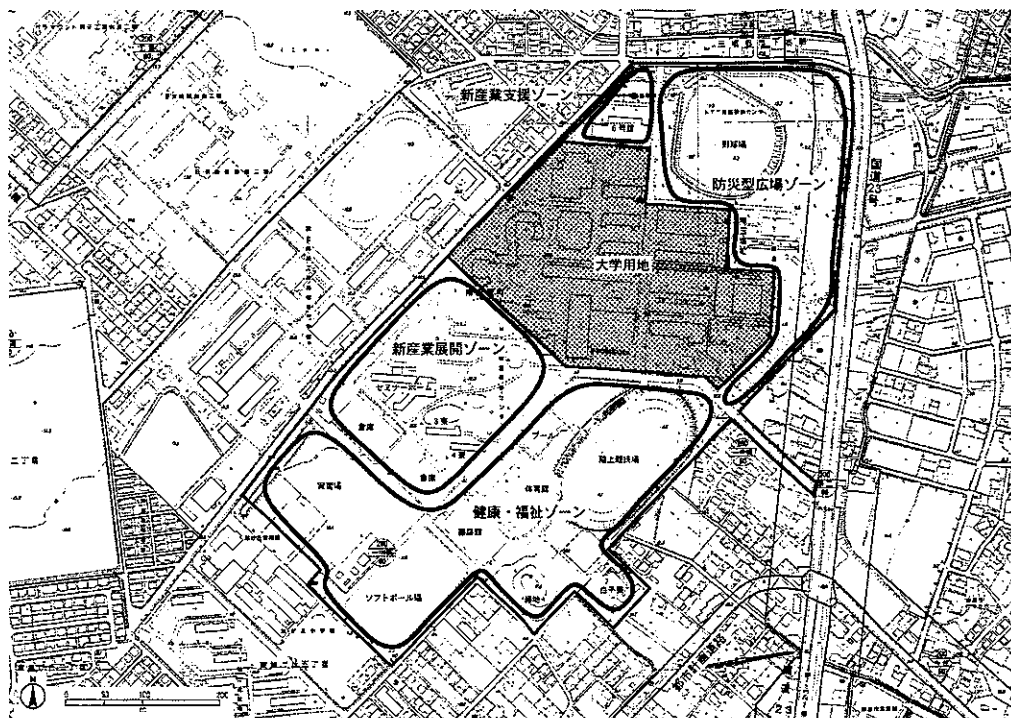
#### ○新産業展開ゾーン

- －リハビリテーション産業を始めとした、新産業が具体的に展開していく場とします。
- －ゾーン内のセミナーホーム、倉庫、研修生寮を、オフィス型・工房型・貸工場型等各種インキュベータスペース、会議室等共用ルーム、宿泊スペース等にリファイン利用します。
- －簡易な建物を建て、福祉用具や補助具の手づくり工房村を設置します。
- －残余の部分には、順次レンタル工房等を建て増し、企業の研究施設等を誘致していきます。

#### ○健康・福祉ゾーン

- －各種タイプの老人ホーム、既存体育館を活用した運動療法施設、リハビリテーション指導や鍼灸治療、バーデプール、リラクゼーション、薬膳レストラン等の総合的なリハビリテーションサービスを提供する健康増進センターなどを民間事業者の誘致に基づき導入します。
- －民間事業者による多様な提供形態のユニバーサルデザインライフの場を段階的に整備します。

#### ○ゾーニング計画図

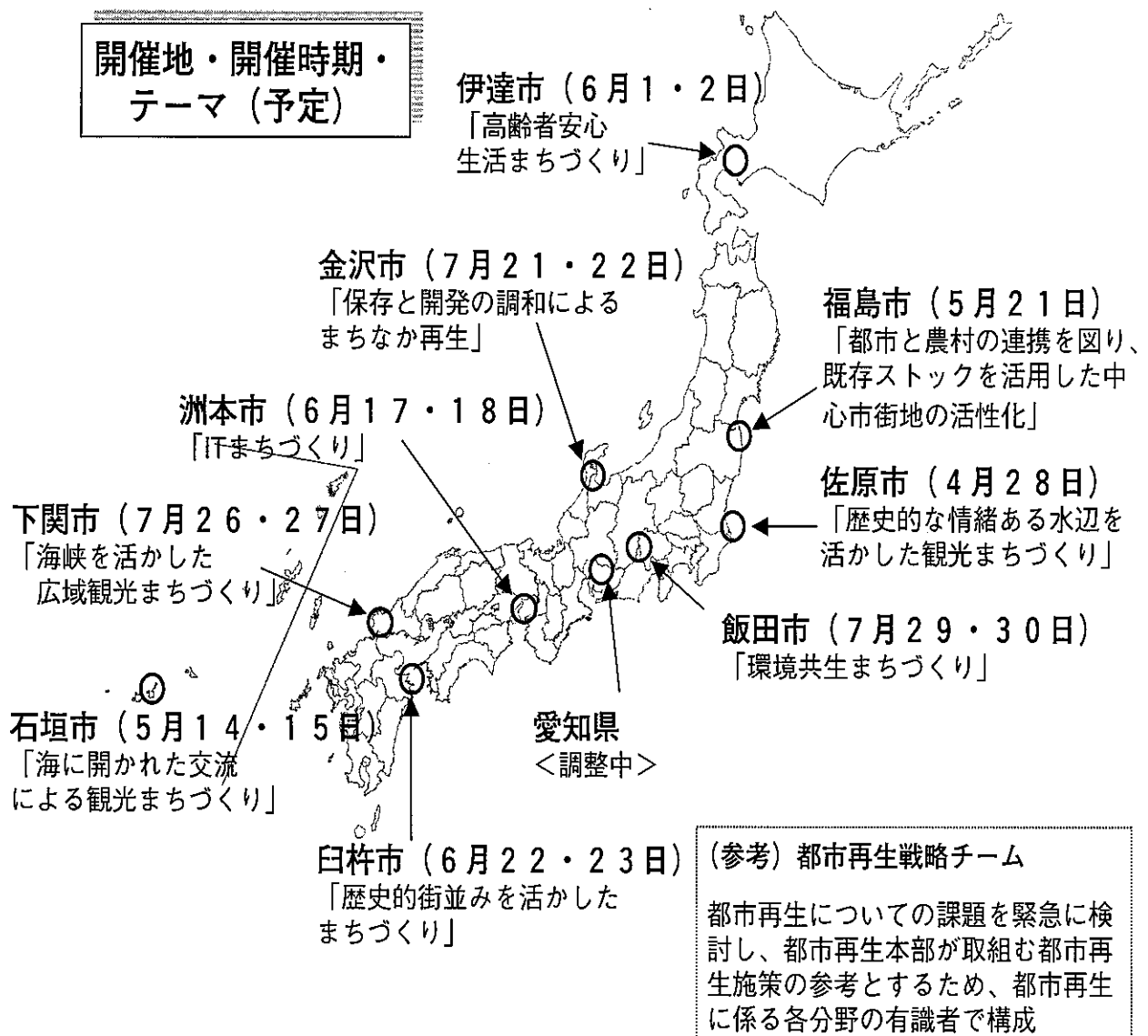




## § 全国都市再生最前線での展開について

都市再生本部では、都市再生戦略チーム（座長：伊藤滋早稲田大学教授）のメンバーと国の関係者が「全国都市再生」の実施地域に赴き、地元の関係者（自治体、産業界、NPO、住民等）と一堂に会して、更なる取組みの推進を図る活動を展開しています。

4月28日の「全国都市再生イン佐原」を皮切りに、すでに石垣、福島、伊達、洲本、臼杵で開催され、熱心な議論が交わされています。





以下、各地域の開催の模様をご紹介します。

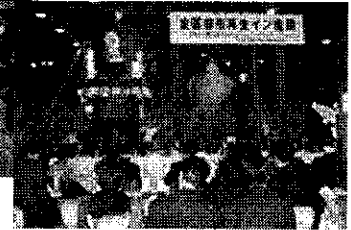
全国都市再生イン佐原

○都市再生戦略チーム・国・県・市長をはじめ地元の経済界・まちづくり関係者ら総勢35人で、利根川舟運で栄えた川沿いの歴史的町並みや山車祭等歴史的文化資源を活用したまちづくりや、首都圏からの交流人口の拡大による産業の活性化について協議、意見交換会が行われた。



舟運視察

会議の様子



全国都市再生イン石垣

○都市再生戦略チーム・国・県・市長をはじめ地元の経済界・まちづくり関係者ら総勢20人で、生活の中で受け継がれている自然を生かした観光、港湾施設との連携による中心市街地の活性化、赤瓦屋根他石垣の建築物の見直しなどの議論が行われた。



中心市街地視察



全国都市再生イン福島

○都市再生戦略チーム・国・県・市長をはじめ地元の経済界・まちづくり関係者ら総勢27人で、既存ストックの活用、TMOやNPO等市民との協働による教育・文化・商業・福祉・居住の推進、農業との交流による都市観光の推進について協議、意見交換が行われた。



スチューデントシティ視察



全国都市再生イン伊達

○都市再生戦略チーム・国・道・伊達市長・壮瞥町長・大滝村長をはじめ地元の経済界・まちづくり関係者ら総勢24人で、伊達市ウェルシーランド構想を中心とした高齢者安心生活まちづくりについて協議、意見交換会が行われた。



高齢者向け施設視察



(寄稿：内閣官房 都市再生本部事務局)



## § 財団の活動状況

日	5月	日	6月
6	低・未利用地活用促進モデル調査WG会議	7	品川新拠点研究会 C-WG会議
10	公民連携WG会議	7	土地利用のあり方調査打合せ
12	都市再生研究会・国土交通省（観光部） 意見交換会	7	秋葉原駅第1出入口上空利用事業提案メ切日
13	低・未利用地経年調査WG会議	8	品川新拠点研究会 B幹事会
13	品川新拠点研究会 C-WG会議	8	品川新拠点研究会 A-WG会議
13	品川新拠点研究会 A-WG会議	14	*品川新拠点研究会「品川を海から見る」
17	東久留米産業振興会議（第2回）	18	品川新拠点研究会A-WG幹事会
18	低・未利用地バンク有識者インタビュー	21	東久留米産業振興会議：新たな発想WG会議
19	都港湾局意見交換：品川新拠点研究会	21	公民連携WG会議
19	都市再生研究会・東京都 （知事本局・都市整備局）意見交換会	25	理事会・評議員会
24	品川新拠点研究会 A-WG（コアメンバー）	28	東久留米産業振興会議（第3回）
25	京阪神まちづくり勉強会	29	品川新拠点研究会B-WG、C-WG
25	地域の魅力調査WG会議	30	品川新拠点研究会A-WG
26	都市再生研究会・#8大阪部会（合同）		

\*印のある項目については、他ページに解説があります。

### 【財団関係諸団体】

#### 《インテリジェントシティ整備推進協議会》

10	監事監査	1	交通結節点研究会（柏市モデル）準備会
20	総合委員会	8	定時総会
		15	幹事会

#### 《地方の拠点まちづくり協議会》

7	監事監査	4	運営会議
20	評議委員会		

#### 《都市地下空間活用研究会》

18	定例懇話会	4	監事監査
		16	評議員会・総会

#### 《アーバンインフラ・テクノロジー推進会議》

25	評議員会・総会	7	UIT企画運営部会
----	---------	---	-----------



## § 品川新拠点研究会「品川を海から見る」

6月14日梅雨の晴れ間に水面から  
東京を見直しました。

当財団が主催する品川新拠点研究会。その基本コンセプトは「品川観光ゲートウェイ構想」。観光情報と技術情報が集約され、観光立国を牽引するハブ機能部分の形成に向け、研究会は具体的提案活動を行っています。

こうした提案の中に、水面の活用を盛り込みたいと考えて本視察会を企画しました。「水面の活用」は都市再生を考える上での重要なキーワードの一つです。品川はまさにその起爆剤としてのポテンシャルを有している交通の要衝です。

江戸開府400年を機に、水面を有効活用していた時代に思いを馳せ、水辺から都市づくりを見直すことにしたわけです。

視察会の参加者は品川研究会のメンバーに東京都河川部、観光部、都市づくり政策部、臨海開発部、並びに都市公団土地有効利用本部の方々を加えた総勢50人弱。一艘の船に都市計画の英知が乗り合わせ品川、台場、大川端、神田川、日本橋川を巡りました。

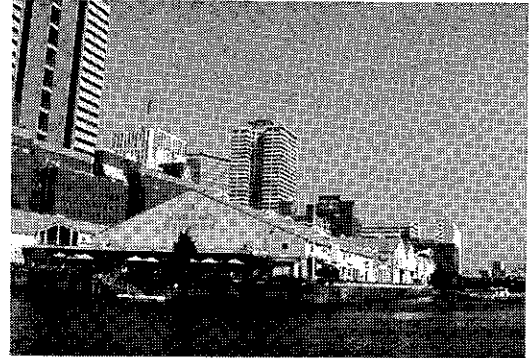
東京の水辺、河川には目立った汚れや匂いはありません。神田川、日本橋川では滑るように船が進み、風景が移り変わります。見慣れた街を水面から見上げ、次々に橋をくぐります。各橋には足を止め、物珍しげに我々を見つめる人々が。

三々五々現れる船着場と様々な船たち。昔、東京が「東洋のベニス」と称されたことも実感出来る風景です。

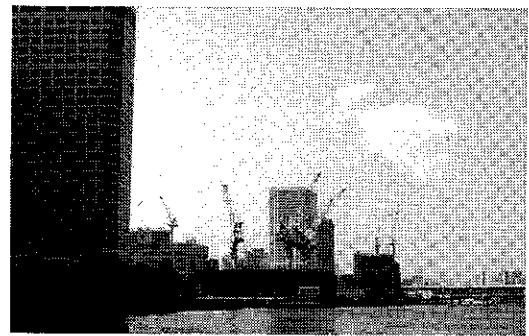
臨海部では旺盛な力を感じる開発が展開されています。それぞれの地区で個性ある開発がなされている品川、豊洲、有明、台場。この間を船で移動できれば15分程度の程よい距離。船で移動すること自体が楽しい、気分入れ替えにもちょうど良い時間となるはずです。

今回の「品川を海から見る」では東京の水辺の心地よさを実感できました。もっと多くの人が気軽にこの心地よさを体験できるようにするには…。水辺に背を向けて発展してきた今の東京の水辺活用において、「難しいが楽しさ一杯」となりそうな宿題を投げかけられた気がしました。

最後になりましたが、東京都港湾局臨海開発部開発整備課片寄整備調整係長、東京都建設局河川部橋本副参事、西村低地対策係長には終始丁寧な解説をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



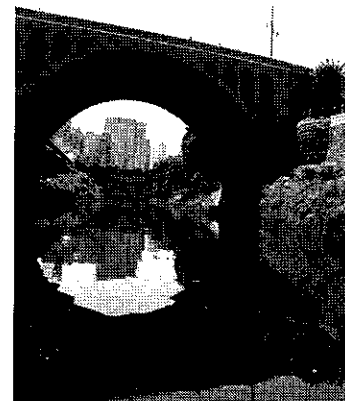
高浜運河沿の商業施設



品川高浜運河



海から品川を見る



神田川聖橋



## §『IT CITY MESSE in GIFU

### －第5回全国都市づくり先進情報技術展－』の開催について

岐阜県では、高度情報化社会に対応したより良い都市づくりを目的として、都市づくりの情報化に向けた施策を推進しています。

この一環として、高度道路交通システム（ITS）、建設CALS/EC、地理情報システム（GIS）、景観関連システム、物流関連システム、住宅関連システムなど、これからの都市づくりに欠かすことができない情報技術を一層普及するため、都市づくりに関連する情報技術の研究成果や最新技術を一堂に集めた、全国でも最大級の展示会として、「IT CITY MESSE in GIFU（第5回全国都市づくり先進情報技術展）」を開催します。

今回は第5回という記念すべき展示会のため、景観関連システム、物流関連システム等のゾーンを新たに設けるなど、大規模にリニューアルします。また、ITS世界会議愛知・名古屋2004のプレイベントとしてITS関連の出展を大幅に拡充します。

さらに、同時開催イベントとして、これらの情報技術に関する多彩なセミナー等を開催します。入場はいつでも無料です。皆様のご来場をお待ちしています。

- 1 開催日時 平成16年7月15日(木)～16日(金)10時～17時
- 2 会場 岐阜メモリアルセンター・未来会館
- 3 予定出展社数 121社・団体(前回80社・団体、93ブース)
- 4 目標来場者数 20,000人(前回15,472人)
- 5 主催者 岐阜県
- 6 後援 警察庁、総務省、国土交通省、国土地理院、中部経済産業局
- 7 同時開催セミナー オープニングイベント オープニングセミナー  
ITSセミナー まちづくり実務者セミナー など

※同時開催セミナー等の詳しい内容につきましては、次のホームページでご確認頂きますようお願いいたします。

(<http://www.it-city-messe.com/>)

【問合せ先】電話 058(272)1111(内3754) 岐阜県 都市政策課 政策企画担当 平野、岡部



前回の様子



#### (財)都市みらい推進機構

住所 東京都文京区音羽2-2-2  
アベニュー音羽3階  
電話 03-5976-5860  
FAX 03-5976-5858  
Email [kikaku@toshimirai.or.jp](mailto:kikaku@toshimirai.or.jp)

ホームページもご覧下さい  
<http://www.toshimirai.or.jp>

当財団は、1985年7月に公民連携支援母体として建設省《国土交通省》により設立された都市開発支援財団です。200弱の自治体・民間企業・公益法人に会員としてご支援頂いております。シンクタンク機能からプロデュース機能の拡充を図ってきております。

- ◇都市拠点開発・都市再生支援
- ◇中心市街地活性化支援
- ◇低未利用地有効活用支援 他